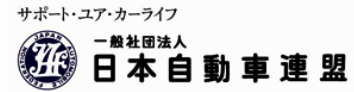
ＪＡＦ セーフティ・アドバイス

－ シートベルトを締めないで安全な席はない！ －

交通事故は思わぬ時に起こるものです。また、車内において、保護者などの不注意により、大切な子どもを危険な目に遭わせてしまうことも・・・

このＤＶＤは、車内の安全性について改めて考え、啓発するための映像が収録されています。

ドライバーに対して、啓発や講習を実施する立場にある方が実践的かつ現実的に車内の安全について啓発や講習を行うための映像です。

本映像をご活用いただき、交通安全の一助となれば幸いです。

＜収録内容＞

後席シートベルト非着用の危険性	〔啓発編　5 分 32 秒〕	〔講習編　9 分 32 秒〕
チャイルドシート不使用の危険性	〔啓発編　5 分 28 秒〕	〔講習編 11 分 34 秒〕
車内に潜む子どもへの危険性	〔総合編 10 分 58 秒〕	

後席シートベルト非着用の危険性

例えば、時速 50Km で走行していた車が万が一の事故などにより衝突した場合、ほとんど瞬時に 0km になります。

しかし、その時全ての乗員には、そのまま時速 50Km で進み続けようとする力が働きます。

そのため、後席でシートベルトを着用していない人は、時速 50ｋｍで、**フロントガラスや、車内の構造物に激突**することになるのです。また、クルマの事故は、正面衝突だけとは限りません。

状況によっては、シートベルトをしていないと車内に激突するだけでなく、**車外に放出される危険**も出てきます。

さらに、同乗者に対して加害者になってしまう危険性もあります。

シートベルトをしていない後席乗員は衝突により投げ出され、前席のシートバックを押しつぶし、シートベルトをしていた**前席の乗員にも大きな被害**を与えてしまいます。

このように万が一の衝突の時、シートベルトをしていないと、自分だけでなく家族などの同乗者の身も守ることはできません。

瞬時に止まって見える衝突も、実は車のボディがつぶれることにより衝撃を吸収し、和らげようとしています。これもシートベルトを正しく着用することによって、初めてその効果が得られるのです。

シートベルトを正しく着用するには首にかからないように、肩ベルトは、鎖骨・胸骨・肋骨にかかるように、腰ベルトは、お腹にかからないように、骨盤の低い位置にくるようにします。また、ねじれや緩みが無いかもチェックしましょう。

それが、あなたや家族を事故の衝撃から守る最善の方法です。

後席シートベルト非着用３つの危険！！！

車内の構造物に激突

車外に放出される危険も

前席乗員へも被害を及ぼす

チャイルドシート不使用の危険性

事故などの衝撃から乗員を守るシートベルトも大人用に設計されているため、身長が 140cm に満たない子どもはシートベルトで守ることができません。

そのため、子どもにはその体格に合ったチャイルドシートを使う必要があるのです。

「スピードを出さないから」とか「近くて慣れた道だから」といって子どもを抱っこしたまま乗車している方を見かけますが、本当に大丈夫なのでしょうか？

時速 40ｋｍでさえ、身体には体重の約 30 倍の力がかかると言われていますから、いくらお母さんがしっかりと抱っこしていたとしても、とても支えきれるものではありません。

急ブレーキの時はどうでしょう？

ＪＡＦの行ったテストでは、急ブレーキを踏むことを分かっていても、身体が不安定となり、対応できず、子どものダミーを支えることができませんでした。まして実際の場面では、いつ急ブレーキが踏まれるか分かりませんから、なおさらです。

急ブレーキの時であっても、抱っこでは子どもを支えることができないのです。

しかし、衝撃から子どもを守ってくれるチャイルドシートも正しく使用しなければ、その効果は十分に発揮されません。

まずチャイルドシートは、子どもの成長、体格に合ったものを、使いましょう。

また、取付けの際は取扱説明書を十分確認し、がたつきがないよう、シートベルトでしっかりと固定します。

子どもは、自分で事故などの危険から身を守ることはできません。それは、私たち大人の役目です。

子どもをしっかりと抱っこしていたとしても、とても支えきれるものではありません！

急ブレーキの時でも車内前方の構造物に強打

衝突の時には前方構造物に激突

車内に潜む子どもへの危険性

非常に便利な乗り物であるクルマ・・・

しかし、その快適なクルマの中にも乗員に及ぼす様々な危険が潜んでいます。

この危険から乗員を守るのは、クルマを利用する私たち一人一人の心掛けがカギとなるのです・・・

車内において、特に大人の不注意などで子どもへ及ぼす危険は、思わぬ所に潜んでいます。

ドアやパワーウインドウなどに手や足を挟んでしまう危険や、保護者がクルマの中に子供を残したまま離れ、車内の温度の上昇によって起こる熱中症等の危険です。

これは、「死」につながるかもしれない重大な危険です。

その他にも、思わぬ危険は沢山あります。

熱による爆発の危険性のあるライターや、子供のイタズラなどで危険を伴う刃物類、工具なども車内に置きっぱなしにしないようにしましょう。

また、シガーライターを子供がいたずらして火傷するケースや、暑い季節では、日光の直射を受けているシートベルトの金具やその他の金属部品による火傷も有ります。

子どもを危険な目に合わせないためには、大人達の注意力が必要です。

＜ＤＶＤに関する問い合わせ先＞　一般社団法人 日本自動車連盟（ＪＡＦ）交通環境部 事業推進課

〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-30　日本自動車会館 14 階

TEL:03-3578-4915　FAX:03-3578-4916　E-mail:ksuisin@jaf.or.jp